



平安だより 2020年6月号 平安幼稚園

「意味のある時間」 牧師・園長 北川正弥

『家を建てる者の退けた石が 隅の親石になった。これは主の御業 わたしたちの目には驚くべきこと。』

旧約聖書 詩篇一一八編二二〜二三節

僕の父親は建設会社の営業をしていました。石油生産プラントに関わっていたので、僕が子供の頃は一年の半分近く、外国に行っていたように思います。だから僕も大人になったらそういう仕事をすつつもりでした。父が法学部を出たというので、僕も法学部に通い、父のように世界で働くことができるような企業に就職するために、就職活動をした結果、ある企業から内定をいただくことが出来ました。ところが、自分が思い描いていたような人生が、これからもずっと続いていくのだと信じていた一月四日の夜、内定をもらっていた企業の人事部から、電話がかかってきたのです。健康診断の結果が良くないので、再検査をしてくれといわれ、再検査の結果、僕は入院することになりました。そして一月の末に退院をした頃には、内定は取り消されています。僕はどうしていいのかわからなくなって、でもこの時すでにクリスチャンでしたから、神様に文句を言うつもりで教会に行っただけです。すると教会の掲示板に、牧師を目標とする人が通う神学校の「入学願書締め切り一月末」と書かれたポスターが貼ってありました。こうして僕は牧師になる道を歩き始めたのです。でも神学校は通常入学から卒業まで六年です。僕のように

他の大学を卒業していると、三年編入できるのですが、それでも四年かかります。僕は五年かかりました。だから僕は合わせて九年も大学に通ったことになりました。ようやく神学校を卒業してもすぐに牧師になれるわけではありません。まずは伝道師です。伝道師を三年、その後試験に合格して、やっと牧師です。だから僕が牧師になった時にはもう三十一歳でした。こんなことなら最初から神学校に行けばよかった、遠回りしてしまった、無駄な時間を過ごしてしまつたと、その頃僕は思っていました。でも牧師になって二五年、今は法律を勉強したことに意味があった、無駄にしたと思っていた時間が、実は大事な時間だったと思えるようになっていきます。

今日紹介した聖書の言葉は、皆に捨てられた人が、皆を救うことになるという意味の言葉で、イエスさまこそキリスト（救い主）と預言している言葉の一つと言われているのですが、僕は、意味がないと思えた時間が、後になって実は大事な時間だったとわかるという意味にも読めると思っています。

幼稚園はようやく皆さんをお迎えできるようになりました。でもまだしばらくは分散登園です。例年だったら幼稚園で、たくさんのお友達や先生と関わる事ができたはずの数カ月が、コロナウィルスによってなくなって、不安を感じておられる方もきっとあると思います。もちろん僕の経験と、今回のことをそのまま比べることはできないでしょう。でも皆さんがずっと家にいなければならなかった時間も、これから先をどう過ごすかによってきつと、あれもいい時間だったねと言える時が来るのではないかと思います。そうなるために、幼稚園は、今は前をむいて、これからの時間が皆さんにとって良い時間になるように精一杯努めます。そうすることできつと、後になってから、あのずっと家にいた時間も、大切な時間だったと思う事ができるようになると信じているからです。

